

福祉先進都市・東京の実現に向けた  
地域包括ケアシステムの在り方検討会議講演

## 東京の課題と展望

一般社団法人  
未来医療研究機構  
代表理事  
長谷川 敏彦

時 20150708 15:30-  
所 東京都庁

### 第0部 課題紹介

- 1 自己紹介
- 2 課題

日本は 50 年後別の国に、19 世紀型社会から 21 世紀社会に人口遷移  
高齢問題は若年者、知らされざる当事者の課題、  
未来社会からの「バックキャストイング」が必要  
「時間軸とロードマップ」が必須

### 第1部 東京の国際的歴史的位置

- 1 アジアの「人口遷移」  
ベトナムまでが人口遷移、独伊西のぞいて 50 歳以上は半分こえず
- 2 人類初の体験「老いる都市」  
東京がその最先端、世界をリード

### 第2部 すべての高齢者に居場所を

- 1 21 世紀課題群  
5 つの領域で大転換  
領域 1 人生「長寿革命で第三の人生重点」  
人生の重みが後半にシフト  
領域 2 家族大変化「結婚革命でまちが家族に」  
多様な家族、空き家急増  
領域 3 列島大変化「末端から縮小」  
高度成長期に、団塊の世代が田舎から都市に流入。郊外に住む  
大都市郊外が領域  
領域 4 労働大変化「労働力不足、高齢者は暇」  
高齢者が若年者支える  
領域 5 疾病大変化「介護・高齢者医療倍増」「入院・外来増えず」  
介護倍増、入院増加小、外来ほとんど増えず  
出発点の高齢化、対象の年齢がカギ  
東京のホットスポット

- 2 働き方が変わる
  - 要介護要支援は倍増、労働力は15%減2030、半減2060
  - しかし55-84歳に200万人、要介護要支援でもないのに働いていない人。
  - 東京で200万人。東京では2040に280万人に増える。
- 3 答えはまちづくり
  - 21式課題群の解決には、まちづくりしかない。
  - 高齢者が社会と繋がり、参加するための居場所を作るためのまちづくり。
  - ケインズの「完全雇用」から「完全居場所」を目標に

### 第3部 多様な東京

- 1 東京の未来
  - 比較的人口が保たれる東京でも若年女性減少。高齢化は国道16号線の内側
- 2 ケアの需要
  - 要介護要支援は2.5倍以上のホットスポット4か所。
  - 入院需要は少し増加、外来需要は減少を開始。地域により多様。
- 3 東京のサイズ
  - 増加の率、実数では順位が異なる。政策が異なる。
  - 実数増で膨大な資源要する地域と周りに小規模自治体。調整必要。
  - 元来東京都は世界69位の国の大きさ、鳥取より大きな自治体4つ。
  - 需要、資源、特性の異なる東京の市区町村は定量的かつ総合的分析が必須

### 第4部 総括

- 1 まとめ
  - 時間枠が重要・・・「人口遷移」で50年後日本は別の国へ
  - 人類初の体験・・・「老いる都市」、東京が世界をリード
  - 21世紀課題群・・・人生家族列島労働疾病が大転換
  - 働き手の減少・・・介護需要急増と支える労働力の減少
  - まちづくり重要・・・高齢者が社会と繋がる居場所づくり
  - 東京の多様性・・・需要、特性自治体毎に把握分析必要
- 2 グッドニュース「豊かな歴史資源」
  - 日本は、過去7回、ほぼ50年で大転換

### 参考資料

- 1 論文「変わる人生・社会・ケア・・・研究実験国家日本の挑戦」2014.9
- 2 報告書「老いる都市と医療を再生する-まちなか集積医療の実現策の提示-」NIRA2012.3
- 3 教科書「ケアサイクル論」地域連携論-医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援- 高橋 紘士、武藤 正樹 オーム社 2013.11.28